



1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)横浜市青葉区田奈町計画新築工事	階数	地上6F
建設地	横浜市青葉区田奈町13-8他4筆	構造	RC造
用途地域	第1種住居地域、準防火地域	平均居住人員	157人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2027年3月 予定	評価の実施日	2025年11月6日
敷地面積	1,338㎡	作成者	(株)クレオー級建築士事務所
建築面積	723㎡	確認日	2025年11月14日
延床面積	2,978㎡	確認者	三井

外観パース等(任意)

### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.0**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★

①参照値 100%  
②建築物の取組み 76%  
③上記+②以外の 76%  
④上記+ 76%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです。

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** Qのスコア = 2.7

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.1

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 1.7

**LR 環境負荷低減性** LRのスコア = 3.3

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.8

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.8

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> 建築基準法を遵守した上で、計画前に比べ緑地部分を増やす等、居住者が不自由なく過ごせる空間を整備し、地域環境へも配慮した計画としている。		その他
<b>Q1 室内環境</b> 建築材料は、JIS・JAS規格のF☆☆☆☆をほぼ全面に採用している。	<b>Q2 サービス性能</b> 鉄筋コンクリート造の劣化対策等級3の性能確保。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 建物外部において、視線を遮らない樹木の配置、庭園灯による夜間照明の設置、防犯カメラの設置、防犯に役立つ窓の配置などを行い、防犯性に配慮している。
<b>LR1 エネルギー</b> 断熱等級5、一次エネルギー等級6を確保。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> ODP=0、GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を採用。	<b>LR3 敷地外環境</b> 建築物の熱負荷抑制(庇による日射遮蔽、Low-Eガラスによる断熱強化)。LED照明設備。

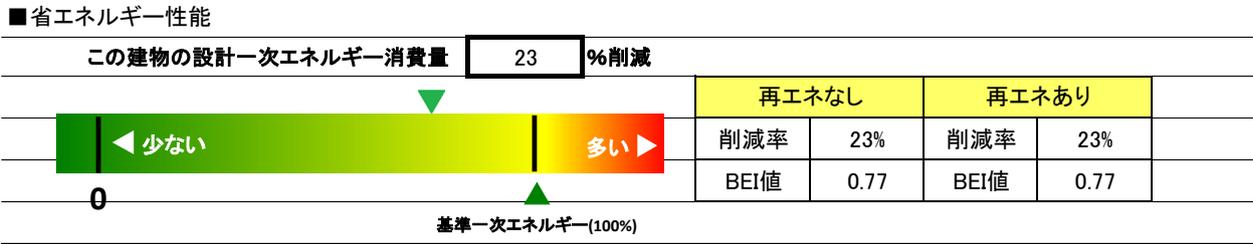
■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



### 4 横浜市重点項目についての環境配慮概要 <集合住宅> 受付日 2025年11月6日

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。 建物名称 (仮称)横浜市青葉区田奈町計画 新築工事

#### 建築物の省エネルギー性能 (E) Energy Saving 重点項目への取組(5点満点) 【省エネルギー性能】 4



■エネルギー対策 (①建物外皮の熱負荷抑制 ②自然エネルギー利用 ③設備システムの高効率化 ④効率的運用)  
断熱等級5、一次エネルギー等級6を確保。

#### 健康・快適な職住環境 (W) Smart Wellness Community 重点項目への取組(5点満点) 【健康・安心】 4

■室内環境対策 (⑤外皮性能)

◆断熱等性能等級 等級5 (相当) ※複数の等級が混在する場合は最も低い等級とする。  
断熱等性能等級5を確保

■健康・安心対策 (⑥健康対策 ⑦防犯対策)  
日本住宅性能表示基準「6-1ホルムアルデヒド対策(内装及び天井裏等)」における等級3を満たしている。

■その他の対策 (⑧自然材料・通風の工夫など)  
◆工夫の有無 なし

#### 防災への配慮 (R) Resilience 重点項目への取組(5点満点) 【防災】 3

■耐用性・信頼性 (⑮耐震・免震 ⑯部品・部材の耐用年数向上 ⑰信頼性)  
コンクリート劣化対策等級3  
給水VP(B)、排水VP(B)、通期VP(A)、Eは不使用

#### 地域・まちづくりへの貢献 (T) Township & Townscape 重点項目への取組(5点満点) 【地域・まちづくり】 2

■室外環境(敷地内)対策 (⑱生物環境 ⑲まちなみ・景観 ⑳地域性への配慮)  
外構緑化係数が、10%以上20%未満を示す規模の外構緑化を行い、なおかつ中高木を植栽している。  
植栽により、良好な景観を形成している。  
視線を遮らない樹木配置、庭園灯による夜間照明設置、防犯カメラ設置、防犯に役立つ窓配置を行い、防犯性に配慮している。

太陽光発電などの導入	環境配慮技術の導入 (太陽光・熱利用、エネルギーマネジメントシステム以外)
_____	
エネルギーマネジメントシステム導入	
_____	



CASBEE横浜2025年版v1.0  
 (仮称)横浜市青葉区田奈町計画新築工事

バージョン CASBEE横浜2025年版v1.0

スコアシート		重点項目		建物全体・共用部		住居・宿泊部分		全体
		<非住宅>	<集合住宅>	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質				-	-	-	-	2.7
Q1 室内環境				-	0.40	-	-	3.1
1 音環境				4.0	0.15	3.3	1.00	3.3
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.50	3.0	0.50	-
1.2 遮音				5.0	0.50	3.6	0.50	-
1 開口部遮音性能				5.0	1.00	5.0	0.30	-
2 界壁遮音性能				3.0	-	3.0	0.30	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	-	4.0	0.20	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	-	2.0	0.20	-
1.3 吸音				-	-	-	-	-
2 温熱環境				1.0	0.35	3.2	1.00	2.9
2.1 室温制御				1.0	1.00	3.3	0.71	-
1 室温		快適・働きやすさ	⑨温熱環境	-	-	3.0	0.63	-
2 外皮性能		快適・働きやすさ 健康・安心	⑨温熱環境 ⑤外皮性能	1.0	1.00	4.0	0.38	-
3 ゾーン別制御性		快適・働きやすさ	⑨温熱環境	3.0	-	-	-	-
2.2 湿度制御		快適・働きやすさ	⑨温熱環境	-	-	3.0	0.29	-
2.3 空調方式		快適・働きやすさ	⑨温熱環境	-	-	-	-	-
3 光・視環境				2.3	0.25	3.3	1.00	3.1
3.1 昼光利用				1.8	0.30	4.0	0.30	-
1 昼光率		快適・働きやすさ	⑩光環境	1.0	0.60	5.0	0.50	-
2 方位別開口		快適・働きやすさ	⑩光環境	-	-	3.0	0.30	-
3 昼光利用設備		快適・働きやすさ	⑩光環境	3.0	0.40	3.0	0.20	-
3.2 グレア対策				2.0	0.30	3.0	0.30	-
1 昼光制御		快適・働きやすさ	⑩光環境	2.0	1.00	3.0	1.00	-
3.3 照度		快適・働きやすさ	⑩光環境	3.0	0.15	3.0	0.15	-
3.4 照明制御		快適・働きやすさ	⑩光環境	3.0	0.25	3.0	0.25	-
4 空気質環境				3.6	0.25	3.3	1.00	3.4
4.1 発生源対策				4.0	0.60	4.0	0.63	-
1 化学汚染物質		快適・働きやすさ	⑪空気質環境	4.0	1.00	4.0	1.00	-
4.2 換気				3.0	0.40	2.3	0.38	-
1 換気量		快適・働きやすさ	⑪空気質環境	-	-	3.0	0.33	-
2 自然換気性能		快適・働きやすさ	⑪空気質環境	3.0	-	3.0	0.33	-
3 取り入れ外気への配慮		快適・働きやすさ	⑪空気質環境	3.0	1.00	1.0	0.33	-
4.3 運用管理				-	-	-	-	-
1 CO <sub>2</sub> の監視		快適・働きやすさ	⑪空気質環境	-	-	-	-	-
2 喫煙の制御		快適・働きやすさ	⑪空気質環境	-	-	-	-	-
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	3.3
1 機能性				3.1	0.40	3.8	1.00	3.7
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	5.0	0.60	-
1 広さ・収納性		快適・働きやすさ	⑫機能性	-	-	-	-	-
2 高度情報通信設備対応		快適・働きやすさ	⑫機能性	3.0	-	5.0	1.00	-
3 バリアフリー計画		快適・働きやすさ	⑫機能性	3.0	1.00	-	-	-
1.2 心理性・快適性				3.0	0.30	2.0	0.40	-
1 広さ感・景観		快適・働きやすさ	⑫機能性	-	-	3.0	0.50	-
2 リフレッシュスペース		快適・働きやすさ	⑫機能性	-	-	-	-	-
3 内装計画		快適・働きやすさ	⑫機能性	3.0	1.00	1.0	0.50	-
1.3 維持管理				3.5	0.30	-	-	-
1 維持管理に配慮した設計		快適・働きやすさ	⑫機能性	4.0	0.50	-	-	-
2 維持管理用機能の確保		快適・働きやすさ	⑫機能性	3.0	0.50	-	-	-
2 耐用性・信頼性				3.1	0.30	-	-	3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	-	-	-
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		防災	⑬耐震・免震	3.0	0.80	-	-	-
2 免震・制震・制振性能		防災	⑬耐震・免震	3.0	0.20	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数				3.6	0.30	-	-	-
1 躯体材料の耐用年数		防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	5.0	0.20	-	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	2.0	0.20	-	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.10	-	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.10	-	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	5.0	0.20	-	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔		防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.20	-	-	-
2.4 信頼性				2.8	0.20	-	-	-
1 空調・換気設備		防災	⑮信頼性	3.0	0.20	-	-	-
2 給排水・衛生設備		防災	⑮信頼性	2.0	0.20	-	-	-
3 電気設備		防災	⑮信頼性	3.0	0.20	-	-	-
4 機械・配管支持方法		防災	⑮信頼性	3.0	0.20	-	-	-
5 通信・情報設備		防災	⑮信頼性	3.0	0.20	-	-	-
3 対応性・更新性				3.0	0.30	3.1	1.00	3.0
3.1 空間のゆとり				-	-	3.2	0.50	-
1 階高のゆとり				-	-	4.0	0.60	-
2 空間の形状・自由さ				-	-	2.0	0.40	-
3.2 荷重のゆとり				-	-	3.0	0.50	-

3.3 設備の更新性			3.0	1.00		-	-
1	空調配管の更新性		3.0	0.20		-	-
2	給排水管の更新性		3.0	0.20		-	-
3	電気配線の更新性		3.0	0.10		-	-
4	通信配線の更新性		3.0	0.10		-	-
5	設備機器の更新性		3.0	0.20		-	-
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20		-	-
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30		-	1.7
1	生物環境の保全と創出	地域・まちづくり	10生物環境の保全と創出	1.0	0.30		1.0
2	まちなみ・景観への配慮	地域・まちづくり	19まちなみ・景観への配慮	2.0	0.40		2.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30		-	2.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	地域・まちづくり	20地域性への配慮	2.0	0.50		-
3.2	敷地内温熱環境の向上	快適・働きやすさ	14敷地内温熱環境の向上	2.0	0.50		-
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-		-	3.3
LR1 エネルギー			-	0.40		-	3.8
1	建物外皮の熱負荷抑制	省エネルギー性能	1建物熱負荷抑制	4.0	0.20		4.0
2	自然エネルギー利用	省エネルギー性能	2自然エネルギー利用	3.0	0.10		3.0
3 設備システムの高効率化			4.3	0.50		-	4.3
	集合住宅以外の評価	省エネルギー性能	3設備システムの高効率化		-		-
	集合住宅の評価	省エネルギー性能	3設備システムの高効率化	4.3	1.00		-
4 効率的運用			3.0	0.20		-	3.0
	集合住宅以外の評価			-		-	-
4.1	モニタリング	省エネルギー性能	4効率的運用		-		-
4.2	運用管理体制	省エネルギー性能	4効率的運用		-		-
	集合住宅の評価		3.0	1.00		-	-
4.1	モニタリング	省エネルギー性能	4効率的運用	3.0	0.50		-
4.2	運用管理体制	省エネルギー性能	4効率的運用	3.0	0.50		-
LR2 資源・マテリアル			-	0.30		-	2.8
1 水資源保護			3.0	0.20		-	3.0
1.1	節水		3.0	0.40		-	-
1.2	雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60		-	-
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	1.00		-	-
2	雑排水等利用システム導入の有無			-		-	-
2 非再生性資源の使用量削減			2.6	0.60		-	2.6
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.10		-	-
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20		-	-
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20		-	-
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		1.0	0.20		-	-
2.5	持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.10		-	-
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み		4.0	0.20		-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20		-	3.3
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.30		-	-
3.2	フロン・ハロンの回避		3.5	0.70		-	-
1	消火剤			-		-	-
2	発泡剤(断熱材等)		4.0	0.50		-	-
3	冷媒		3.0	0.50		-	-
LR3 敷地外環境			-	0.30		-	3.1
1 地球温暖化への配慮			3.9	0.33		-	3.9
2 地域環境への配慮			2.4	0.33		-	2.4
2.1	大気汚染防止		3.0	0.25		-	-
2.2	温熱環境悪化の改善		2.0	0.50		-	-
2.3	地域インフラへの負荷抑制		2.7	0.25		-	-
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25		-	-
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25		-	-
3	交通負荷抑制		3.0	0.25		-	-
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25		-	-
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33		-	3.0
3.1	騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40		-	-
1	騒音		3.0	0.33		-	-
2	振動		3.0	0.33		-	-
3	悪臭		3.0	0.33		-	-
3.2	風害、砂塵、日照阻害の抑制		3.0	0.40		-	-
1	風害の抑制		3.0	0.70		-	-
2	砂塵の抑制		1.0	-		-	-
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30		-	-
3.3	光害の抑制		3.0	0.20		-	-
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70		-	-
2	壁光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30		-	-
上記以外の重点項目				-		-	-
<事務用途>				-		-	-
知的生産性向上への取組		快適・働きやすさ	13知的生産性向上への取組	-	-	-	-
<住宅用途>				-		-	-
健康と安心				-		-	-
1	化学汚染物質の対策	健康・安心	6健康対策	3.0	-	-	-
2	適切な換気計画	健康・安心	6健康対策	3.0	-	-	-
3	結露・カビ対策	健康・安心	6健康対策	3.0	-	-	-
4	犯罪に備える(共用部の防犯対策)	健康・安心	7防犯対策	4.0	-	-	-